

姉妹州協定 50 年記念事業

## 「滋賀の書」の世界と魅力を発信

1968年、滋賀県とミシガン州は、琵琶湖と五大湖という日米両国を代表する「湖」を有する縁から姉妹州協定を締結しました。2018年は本協定締結から50年目という節目の年になります。

この長きにわたる友好交流の記念事業として、2018年8月19日（日）から10月13日（土）まで、ミシガン州アナーバー市にあるアナーバー公立図書館にて、「SYODO：滋賀県書道展」が開催され、駐在員もお手伝いさせていただきました。

本展は、創立70周年を迎えられた公益社団法人滋賀県書道協会様と滋賀県との共催により開催。350点以上の作品が滋賀の地から海を渡り、アナーバー公立図書館に展示されました。白い紙に黒い墨。これがカリグラフィー（書道）と考えていた現地スタッフは、「作品はどれも赤、青、緑など色鮮やかな掛軸に表装され、とても華やか。作風もバラエティ豊かで見ている飽きない。芸術作品だね。」とこれまでのカリグラフィーのイメージが覆ったと話してくれました。



「滋賀の書」で図書館の壁が色鮮やかに

開会式では、書道協会役員3名が来賓代表者3名とペアを組み、大きな画仙紙に「希」、「望」、「福」を共同で書き上げるデモンストレーションを実施。約150名のギャラリーは迫力あるパフォーマンスに大興奮の様子でした。



全身を使って描かれた共同制作作品「希」、「望」、「福」

また、8月20日（月）、21日（火）には、現地の方々に書の世界とその魅力を直接伝えるため、協会員ら102名が滋賀県からアナーバー市を訪問。「うちわ作り」や「一字書体験」などのワークショップが開催されました。102名のうち、3割は小・中・高校生。「海外は初めてで・・・」、「書はできるけど、実は英語が苦手で・・・」と開始前は不安そうな顔を見せていた方々も、いざ始まれば、身振り手振りを含めて、積極的に交流。滋賀から訪れた小学生が、現地の小学生に「ワン、ツー、スリー、・・・」と書き順を教えながら一緒に書を楽しむ場面やつつい熱が入ってしまい、教室さながらの厳しい指導（笑）が見られる場面など、種々様々な交流が図られました。期間中、小学生たちが「プリーズ ジョイン ワークショップ！」と来館者を会場へ誘導しようと図書館中を駆け回ってくれたおかげもあり、二日間で約300名が来場。とても盛況なワークショップとなりました。

滋賀県書道協会の神田浩山理事長は、「書の力・文化交流の素晴らしさを改めて実感した。ミシガンの地で滋賀の書を通した素晴らしい交流を行うことができ本当に嬉しい。『100周年でもまた来ます。』と言ってくれる子供もおり、未来につながるとてもよい青少年交流が実現できた。」と笑顔で話してくださいました。

展示作品は会期終了後、希望者に交流の証としてプレゼントされました。



大好評だったうちわ作り教室



大きなロール紙に皆で寄せ書き



日米のかけ橋をイメージして「虹」